

最貧困層へのMF

—政府・NGOやコンポーネント型支援の課題—

(コンポーネント型： プロジェクトの一部として
MFを導入する形態)

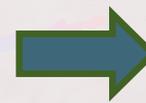
2015年11月21日

オイコクレジット・ジャパン 運営委員

栗野 晴子

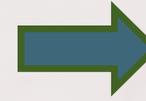
最貧困層を対象にしたMF ・プロジェクトの課題

コストに比べ低い金利の設定
低い返済率



資金の枯渇

プロジェクト終了とともに
サービスが停止



X 継続した
インパクト

失敗要因

- **政府機関（非金融機関）やNGOによる実施の問題**
 - 実施能力や持続性への関心の低さ
 - 住民が贈与になることを期待
 - 政治的干渉や官僚体制からくるプロセスの遅れ
- **不適切な制度設計**
- **プロジェクト側の財務持続性（コスト回収）への意識不足や管理の不徹底**
- **MF導入の目的・将来計画が不明確また出口戦略が欠如**
- **MF専門家の投入の不足**

成功要因

- 住民主体の貯蓄貸付制度、組織作りとオーナーシップの形成
- 返済メカニズムの確立
- 組織の能力強化と一貫した支援： MF運営のための帳簿付けの訓練やマネジメント指導、成功事例の訪問、住民との信頼関係の構築、透明性の確保
- 既存のMF機関の活用や連携
- 目的の明確化と出口戦略の設計：
→ 制度構築への取り組みの強化

教訓

- MF導入の明確な目標設定と出口戦略
- 適切な制度設計と能力強化

初期からのMFの専門家の導入が望まれる。

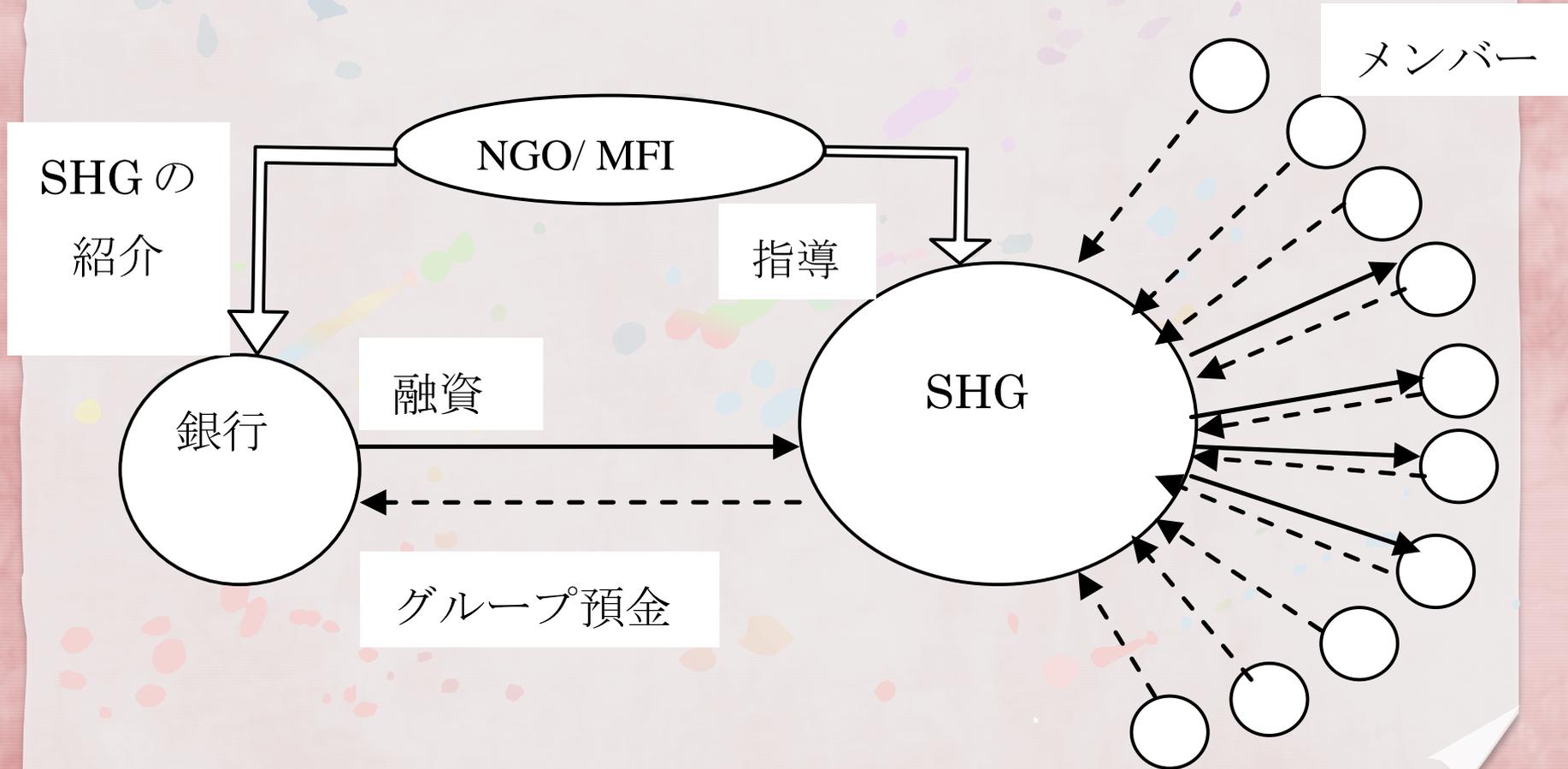
- 適切な実施主体の選択

既存のMF機関の活用や住民主体の運営など複数のオプションを検討して選択。

- コミュニティベースのMFの可能性

情報不足や担保の欠如といった問題に対応できる可能性。住民主体の貯蓄貸付制度では、住民のオーナーシップが形成。

インドの自助グループの例





© Opmeer Reports

やし皮繊維の加工用機械を使う自助グループのメンバー
(インド東部のオリッサ州)